

令和5年度 川崎市強度行動障害支援力向上研修  
(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】・【実践研修】) 学則

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会

1. 目的

行動障害を有する者のうち、いわゆる「強度行動障害」を有する者は、自傷、他害行為など、危険を伴う行動を頻回に示すことなどにより、日常生活に困難が生じているため、現状では事業所での受入れが消極的であったり、身体拘束や行動制限などの虐待につながる可能性も懸念されるところです。

一方、障害特性の理解に基づく適切な支援を行うことにより、強度行動障害が低減し、安定した日常生活を送ることができることが知られています。

このため、強度行動障害を有する方の地域移行及び地域生活に向けた取り組みとして強度行動障害に係る支援手法の浸透や、適切な支援を行う職員の人材育成を目的とした川崎市強度行動障害支援力向上研修(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】)を実施します。

また、強度行動障害のある方に対して、適切な支援計画を作成することが可能な職員の育成を目的とした川崎市強度行動障害支援力向上研修(強度行動障害支援者養成研修【実践研修】)を実施します。

2. 研修事業の名称等

名 称 : 川崎市強度行動障害支援力向上研修  
(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】・【実践研修】)

事業者指定番号 : 第0002号

3. 研修実施場所

【基礎研修】・【実践研修】

名 称 : 総合研修センター 研修室  
所 在 地 : 〒210-0024 川崎市川崎区日進町5-1 川崎市複合福祉センター2階  
電話番号 : 044-223-6509

#### 4. 研修期間

【基礎研修】令和5年度に4回実施します。

第1回 令和5年 5月25日（木）・26日（金）（2日間）

第2回 令和5年 7月20日（木）・21日（金）（2日間）

第3回 令和5年 9月21日（木）・22日（金）（2日間）

第4回 令和5年11月16日（木）・17日（金）（2日間）

【実践研修】令和5年度に1回実施します。

令和5年 6月22日（木）・23日（金）（2日間）

#### 5. 研修カリキュラム及び講師氏名、演習計画（別紙参照）

#### 6. 受講資格

次の（1）から（3）の要件をすべて満たす者

- （1）川崎市内に所在する障害福祉サービス事業所等において、知的障害、精神障害のある児者を支援対象にした事業に従事する者、もしくは今後従事する予定のある者
- （2）2日間すべての日程を受講できる者であること
- （3）所属している法人の推薦を受けた者
- （4）【実践研修】は強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）、もしくは重度訪問介護従業者養成研修（行動障害支援課程）を修了した者

#### 7. 受講手続（募集要項等）

ウェブサイト「障害福祉情報サービスかながわの「書式ライブラリー」→「3. 川崎市からのお知らせ」→「1. 川崎市からのお知らせ」に各回の募集要領（実施要領）を掲載し申し込み方法をお知らせします。申し込みは個人ではなく、所属する法人単位で申し込みをしていただきます。

#### 8. 受講者の決定

- 定員を上回った場合には、推薦された方の中から、法人内優先順位を勘案し、申込の内容を審査した上で決定します。（先着順ではありません。）
- 行動援護業務に従事している方や従事しようとする方は、「行動援護従業者養成研修」をご受講ください。
- 受講決定については、各法人あてに通知をまとめて送付します。

## 9. 受講定員

【基礎研修】 各回 50 名程度

【実践研修】 50 名程度

## 10. 受講料

【基礎研修・実践研修】 受講料は 8,000 円です。支払方法等詳細は、受講決定とともにご案内します。

※会場までの交通費その他についても、受講者負担とします。

※お支払いいただいた教材費等は、いかなる理由があっても返金されません。

## 11. 使用テキスト ※テキストは受講者が各自用意してください。

強度行動障害のある人の「暮らし」を支える

(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修・実践研修】テキスト)

発行：中央法規出版社

監修：特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク

編集：牛谷正人・肥後祥治・福島龍三郎

## 映像教材（会場で視聴）

DVD 強度行動障害のある人の「暮らし」を支える

(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修・実践研修】教材)

発行：中央法規出版株式会社

監修：特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク

制作：佐賀由彦事務所

## 12. 研修修了の認定方法

(1) 公的機関発行の証明書等により受講者の本人確認を行い、全カリキュラムを受講した者に対して修了証明書を交付致します。なお本人確認方法については研修初日に下記の提示によって行います。

- ・住民票の写し
- ・住民基本台帳カード
- ・在留カード等
- ・健康保険証
- ・運転免許証
- ・パスポート
- ・年金手帳

- ・生活保護受給証明書
- ・国家資格等を有する者については、免許証又は登録証等

(2) 受講者がやむを得ない理由でカリキュラムの一部を受講しなかった場合は、補講の受講によって修了証明書を交付します。他の事業者が指定を受けた同一過程の研修において、該当科目を受講することで補講とします。その際は【基礎研修】は原則1ヶ月以内、やむを得ない場合2ヶ月以内に受講することとし、【実践研修】は原則2ヶ月以内、やむを得ない場合は4ヶ月以内に受講することとします。補講を受講した際には、別途受講料が発生する場合があります。

### 1 3. 個人情報の取り扱いについて

- 研修を通して知り得た個人情報は、当該研修業務の運営以外に使用されることはありません。
- 本研修の修了者は、強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】【実践研修】の修了者名簿（修了証書番号、氏名、生年月日、所属等）として神奈川県に報告します。

### 1 4. その他

- 遅刻及び早退は欠席とみなします。修了証書を交付できませんので、ご注意ください。通勤時間帯による混雑や天候等をご配慮の上、余裕を持ってご来場ください。  
※遅刻は原則、遅れた時間の長さを問わず欠席としますので時間を厳守ください。
- 著しく受講態度が悪く（私語、居眠り、携帯電話の使用等）、繰り返し注意された方には修了証書を交付できませんので、ご注意ください。
- 受講にあたり、手話通訳、点字教材、身体障害者用駐車場等を使用する方は、受講申込書の所定欄に記載してください。
- 来場の際は、公共交通機関をご利用ください。
- 川崎市強度行動障害支援力向上研修の開講日に、自然災害（大雪等）及び事故等が発生した場合、開講しないまたは開始時刻を遅らせることがあります。その場合には、開講当日の午前8時30分までに、障害福祉情報サービスかながわ（<http://www.rakuraku.or.jp/shienhi/>）及び社会福祉法人川崎市社会福祉協議会総合研修センターのホームページ（<http://www.kourei-c.jp/>）にその旨を掲載いたしますので、ご確認ください。

15. 研修に関する問合せ先

(本研修の申込手続き・実施等に関する問合せ先)

■社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 総合研修センター

住 所：〒210-0024 川崎市川崎区日進町5-1 2階

電 話：044-223-6509

FAX：044-223-6598

担 当：梶田 鈴木

(本研修に関する問合せ先)

■川崎市健康福祉局 総合リハビリテーション推進センター 企画・連携推進課

住 所：〒210-0024 川崎市川崎区日進町5-1 2階

電 話：044-200-3197

FAX：044-200-3974

担 当：後藤 木下

## 講 師 一 覧 (基礎研修)

担当科目		氏 名	現 職	専任・兼任
講 義	1 強度行動障害がある者の基本的理解			
	①強度行動障害の理解	さ の りょう 氏 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
		あ さ の ともあき 氏 阿佐野 智昭 氏	社会福祉法人青い鳥 川崎市発達相談支援センター	兼任
		きむら しげゆき 氏 木村 重之 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 ポルト能見台	兼任
		すずき のりゆき 氏 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 あかしあ園	兼任
		にのみや る み 氏 二宮 瑠美 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任
	2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識			
	②研修の意義	きむら しげゆき 氏 木村 重之 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 ポルト能見台	兼任
		すずき のりゆき 氏 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 あかしあ園	兼任
		なかむら たいと 氏 中村 泰斗 氏	川崎市健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課	兼任
	③支援のアイデア	うやま しゅういち 氏 宇山 秀一 氏	横浜市発達障害者支援センター	兼任
		さ の りょう 氏 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
		にのみや る み 氏 二宮 瑠美 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任
	④チームプレイの基本	すずき のりゆき 氏 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 あかしあ園	兼任
		いいだ じゅんいち 氏 飯田 純一 氏	社会福祉法人セイワ 障害者支援施設（入所）つばき寮	兼任
		さ の りょう 氏 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
		あんざい たまき 氏 安齋 環 氏	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 川崎市柿生学園	兼任
		きたがわ めぐみ 氏 北川 恵 氏	社会福祉法人なごみ福祉会 相談支援センタードリーム	兼任
	⑤実践報告	さ の りょう 氏 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任

演 習		すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 あかしあ園	兼任
		あかつ きみひろ 赤津 公啓 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任
		にのみや る み 二宮 瑠美 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	兼任
		いしだ り さ 石田 理沙 氏	株式会社リヴサービス児童発達支援 放課後等デイサービス next	兼任
		きむら せんり 木村 仙理 氏	社会福祉法人セイワ 障害者支援施設（入所）つばき寮	兼任
	1 基本的な情報収集と記録等 の共有	うきがい あきのり 浮貝 明典 氏	特定非営利活動法人 PDD サポートセンター グリーンフォーレスト	兼任
		すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 あかしあ園	兼任
		いいだ じゅんいち 飯田 純一 氏	社会福祉法人セイワ 障害者支援施設（入所）つばき寮	兼任
	2 行動障害がある者の固有の コミュニケーションの理解	きたがわ めぐみ 北川 恵 氏	社会福祉法人なごみ福祉会 相談支援センタードリーム	兼任
		さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
		すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 あかしあ園	兼任
		きむら しげゆき 木村 重之 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 ポルト能見台	兼任
	3 行動障害の背景にある特性 の理解	うきがい あきのり 浮貝 明典 氏	特定非営利活動法人 PDD サポートセンター グリーンフォーレスト	兼任
		すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 あかしあ園	兼任
		きむら しげゆき 木村 重之 氏	社会福祉法人横浜やまびこの里 ポルト能見台	兼任

## 演習補助者一覧 (基礎研修)

担当科目		氏 名	現 職	専任・兼任
演 習	1 基本的な情報収集と記録等の共有	かんだ やすあき 神田 靖章 氏	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 川崎市 柿生学園 園長	兼任
		いいだ じゅんいち 飯田 純一 氏	社会福祉法人セイワ 障害者支援施設（入所）つばき寮	兼任
	2 行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解	すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 あかしあ園	兼任
		とみやま えつろう 富山 悦郎 氏	社会福祉法人三篠会 障害者支援施設みずさわ	兼任
	3 行動障害の背景にある特性の理解	さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
		いもと けいこ 井元 圭子 氏	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 くさぶえの家	兼任
		うちかわ ぎんや 内川 銀也 氏	社会福祉法人三篠会 川崎ラシクル	兼任
		あんざい たまさ 安齋 環 氏	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 川崎市 柿生学園	兼任
		きたがわ めぐみ 北川 恵 氏	社会福祉法人なごみ福祉会 相談支援センタードリーム	兼任
		たかすぎ まさひろ 高杉 昌宏 氏	社会福祉法人川崎聖風福祉会 アトリエ聖風	兼任
		ながた たかし 長田 貴志 氏	社会福祉法人育桜福祉会 桜の風	兼任
		きむら せんり 木村 仙理 氏	社会福祉法人セイワ 障害者支援施設（入所）つばき寮	兼任
		かたおか たけし 片岡 健 氏	社会福祉法人ともかわさき かせやま	兼任
		ほそぶち しゅんいち 細渕 俊一 氏	社会福祉法人ともかわさき ちとせ	兼任
		まつもと かなこ 松本 香菜子 氏	社会福祉法人育桜福祉会 しらかし園	兼任
		わたなべ としゆき 渡邊 敏之 氏	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 川崎市 柿生学園	兼任



## 川崎市強度行動障害支援力向上研修（基礎研修）研修カリキュラム

## 1日目 9:15~17:00

プログラムNo	科目	開始	終了	min	内 容
受付		9:00	9:15		
開会		9:15	9:30	15	川崎市より挨拶 研修オリエンテーション
プログラム01		9:30	9:45	15	研修のねらい
プログラム1	講義1	9:45	10:30	45	強度行動障害の理解 「支援の基本的な考え方 強度行動障害の状態 行動障害が起きる理由」
		10:30	10:45	15	アイスブレイク・グループ内で自己紹介
休憩		10:45	10:55	10	
プログラム2	講義2	10:55	11:55	60	強度行動障害の理解「障害特性の理解」
昼休憩		11:55	12:55	60	
プログラム3	演習1	12:55	14:55	120	強度行動障害の理解「困っていることの体験」
休憩		14:55	15:05	10	
プログラム4	講義3	15:05	16:35	90	支援のアイディア「障害特性に基づいた支援」
プログラム02		16:35	16:55	20	グループで意見交換
		16:55	17:00	5	本日のまとめ

## 2日目 9:00~18:00

プログラムNo	科目	開始	終了	min	内 容
受付		8:50	9:00	10	
プログラム03		9:00	9:05	5	2日目のねらい
プログラム5	演習2	9:05	10:05	60	基本的な情報収集「行動を見る視点」
休憩		10:05	10:15	10	
プログラム6	演習3	10:15	11:45	90	特性の分析「特性の把握と適切な対応」
昼休憩		11:45	12:45	60	
プログラム7	講義4	12:45	13:45	60	チームプレイの基本「チームプレイの必要性」
休憩		13:45	13:55	10	
プログラム8	演習4	13:55	14:55	60	チームプレイの基本「支援手順書に基づく支援の体験」
休憩		14:55	15:05	10	
プログラム9	講義5	15:05	15:35	30	研修の意義①「行動障害」
		15:35	16:05	30	研修の意義②「虐待防止」
休憩		16:05	16:15	10	
プログラム10	講義6	16:15	16:45	30	実践報告①「児童期の支援の実際」
		16:45	17:15	30	実践報告②「成人期の支援の実際」
プログラム11	講義7	17:15	17:45	30	研修の意義「家族の気持ち」
閉会		17:45	18:00	15	川崎市より挨拶 修了証交付

※状況により変更する可能性があります。

川崎市強度行動障害支援力向上研修  
(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】) 演習計画書

●演習について

- ・各演習におけるグループワークは1グループ最大8名とする。
- ・適切な進行や助言者として、各グループに補助者を1名配置し進行管理を行う。
- ・配置された補助者が講義などでグループを離れる際は、該当するグループの受講者に説明をしたうえで代理の補助者を配置し対応する。

●演習1「プログラム3 強度行動障害の理解 困っていることの体験」(120分) 演習計画  
【実施方法】

「プログラム2 強度行動障害の理解 障害特性の理解」の講義内容について演習で体験的に理解する流れで実施。演習講師の進行により、グループごとにアイスブレイクと4種類の疑似体験、振り返りの話し合い、代表グループによる発表で共有することで、自閉スペクトラム症児者の障害特性からくる困っている感覚を体験的に理解する演習とする。

科目 プログラム3	分	内容	分担	使用ツール
「強度行動障害の理解 困っていることの体験」	15	演習解説・アイスブレイク	講師	ワークシート 個人用A4 グループ用A3
	15	体験Ⅰ 伝えられないもどかしさ	講師 ファシリテーター	
	15	体験Ⅱ 意味の分からない苦痛	講師 ファシリテーター	
	15	体験Ⅲ 見通しの持てない不安や恐怖	講師 ファシリテーター	
	15	体験Ⅳ 感覚の特異性	講師 ファシリテーター	
	20	振り返り 個人ワーク・グループでの共有	ファシリテーター	
	20	発表	ファシリテーター 代表受講者	
	5	まとめ	講師	
	120			

グループワークは文具等の備品の共有を避け、記録はファシリテーターが担うことで接触感染予防に配慮する。

## ●演習2「プログラム5 基本的な情報収集 行動を見る視点」(60分) 演習計画

### 【実施方法】

事前説明ののち、映像教材を用いて映像にある事例「田中さんの外出場面」を視聴し、実際の支援場面を想起する。

「行動チェックシート(アセスメント演習用)」を用いて、映像から該当する行動項目にチェックを入れ、支援の中で支援対象者の示す行動に着目することを体験する。

社会性の特性・コミュニケーションの特性・想像力の特性・感覚の特性のそれぞれについて映像を部分的に繰り返し視聴し、講師の解説に合わせて一つ一つ繰り返し確認することで「行動に注目することの重要性」と「注目の仕方(視点)」の理解につなげる。

科目 プログラム5	分	内容	分担	使用ツール
「基本的な情報収集行動 を見る視点」	5	演習説明	講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例 田中さんの基本情報 資料</li> <li>・映像教材 DVD</li> <li>・行動チェックシート(アセスメント演習用)</li> </ul>
	10	事例概要説明・映像視聴	講師	
	10	社会性の特性に注目した行動観察 ・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
		コミュニケーションの特性に注目した行動観察 ・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
	10	想像力の特性に注目した行動観察 ・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
		感覚の特性に注目した行動観察 ・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
	10	まとめ	講師	
	5			

行動チェックシート(アセスメント演習用)はあらかじめチェックが入っているものを使用し、講師による手本を示しながらシートの活用方法を解説する。映像を視聴しながらチェックのついていない項目について受講者にもチェックしてもらう形で体験する。

## ●演習3「プログラム6 特性の分析 特性の把握と適切な対応」(90分) 演習計画

### 【実施方法】

講師の解説により、冰山モデルで考える考え方と冰山モデルシートおよび補助シート(行動チェックシート・特性確認シート・環境確認シート・強み確認シート)の関連性と使い方を理解する。

映像教材を用いて事例「田中さんの公園での水遊び場面」を視聴し、課題となる行動「水遊びを止められて自傷する」行動について冰山モデルシートおよび補助シートを使用して特性の分析を個人ワークで体験する。

冰山モデルシートおよび補助シートを活用し、特性に合わせた適切な支援方法を導き出す体験をし、実際の支

援場面での活用イメージを作る。

グループワークで共有し、チームで検討する有効性に気づく。

科目 プログラム 6	分		内容	分担	使用ツール
「特性の分析特性の把握と適切な対応」	90	5	演習全体の説明	講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行動チェックシート</li> <li>(冰山演習用)</li> <li>・ 冰山モデルシート (A4 個人)</li> <li>・ 特性確認シート</li> <li>(冰山演習用)</li> <li>・ 環境確認シート</li> </ul>
		15	演習の説明 映像視聴	講師	
		10	個人ワーク 着目した行動「水遊びを止められて自傷をする」に対し、水遊びを止められない理由や止められて自傷する理由を特性から考える	ファシリテーター	
		4	演習の説明 冰山モデル「特性」の記入 環境のアセスメントについて補助シートを手がかりに解説	講師	
		5	個人ワーク 「水遊びを止められて自傷する」場面の環境要因について確認	ファシリテーター	
		1	まとめ	講師	
		5	演習の説明	講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特性確認シート</li> <li>(冰山演習用)</li> <li>・ 強み (ストレングス) 確認シート</li> <li>・ 冰山モデルシート (グループ用 A3)</li> </ul>
		5	個人ワーク 「特性確認シートの支援のアイデア」を使用して事例田中さんの特性に活用できそうな支援のアイデアを検討	ファシリテーター	
		10	グループワーク 個人で検討した内容の共有しグループで支援のアイデアを考える	ファシリテーター	
		5	演習の説明	講師	
		5	個人ワーク 「強み (ストレングス) 確認シート」を使用し、活かせるような強みに気づく	ファシリテーター	
		10	グループワーク 個人で検討した内容の共有しグループで活かせるような強みを考え、冰山モデルシートを完成する	ファシリテーター	
		5	まとめ 動画視聴	講師	
		5	演習全体のまとめ	講師	

●演習4「プログラム8 チームプレイの基本支援手順書に基づく支援の体験」（60分）演習計画

【実施方法】

外出場面での支援手順書と記録の様式を用い、事例「田中さん」の外出場面をロールプレイで体験する。

演習3「プログラム6」で検討された田中さんの行動と背景の特性・支援のアイデアを根拠に作成された支援手順書に基づく支援の実際について学ぶ。

支援の様子を的確に記録し、次につながる支援記録を残すことを学ぶ。

支援の同じ質を担保しながらさらに良い支援を組み立てていくための職場内連携を学ぶ。

支援手順書や環境調整（構造化）のアイデアやわかりやすい手がかりの使い方を体験する。

科目 プログラム8	分		内容	分担	使用ツール
「チームプレイの基本支援手順書に基づく支援の体験」	60	20	演習説明 ロールプレイの解説と配役の流れを理解する 活用する活動カード等のグッズを紹介する 支援手順書を確認する	講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出の支援手順書（A4）</li> <li>・ロールプレイチェックシート</li> <li>・活動カード</li> <li>（公園、お茶、ごはん、家に帰る）</li> <li>・スケジュール台紙</li> <li>・タイマー</li> <li>・お茶（ペットボトル）</li> <li>・かばん</li> <li>グループ会場表示用プレート（A4）</li> <li>・家（GH）</li> <li>・ブランコ</li> <li>・水道</li> <li>・ベンチ</li> <li>グループワーク用振返シート</li> </ul>
		3	資料読み込み	講師	
		2	デモンストレーション	ファシリテーター	
		25	20 ロールプレイ 支援手順書に基づきグループホームから公園に移動し、ベンチでお茶を飲むまでのルートを想定し、研修のグループテーブルを3/4周回る形で外出支援を行う 途中、ブランコに立ち寄り、水道の水遊びをする場面を支援手順書通り支援することで円滑に回る	田中さん役： ファシリテーター 支援者役：受講者 観察者役：受講者 全ての受講者が支援者役を交代で体験する	
		5	グループワーク説明		
		10	振り返り 体験した感想を振り返り、支援手順書に基づく支援や記録について意見を交換する	進行 記録 ファシリテーター	
		10	発表 他のグループの意見を聞き、学びを共有する	講師	

(学則 別紙4－1)

## 講 師 一 覧 (実践研修)

担当科目		氏 名	現 職	専任・兼任
講 義	1 強度行動障害がある者へのチーム支援			
	①支援を組み立てるための基本	すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 あかしあ園	兼任
	②組織的なアプローチ	かじわら あきこ 梶原 明子 氏	川崎市総合リハビリテーション推進センター 南部地域支援室	兼任
		おおがき えりこ 大垣 恵理子 氏	川崎市総合リハビリテーション推進センター 北部地域支援室	兼任
		めぐろ ゆうこ 目黒 裕子 氏	川崎市総合リハビリテーション推進センター 中部地域支援室	兼任
	2 強度行動障害と生活の組み立て			
	③実践報告	たかすぎ まさひろ 高杉 昌宏 氏	社会福祉法人川崎聖風福祉会 アトリエ聖風	兼任
演 習	1 障害特性の理解とアセスメント	さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人事務局	兼任
	①アセスメントの方法	うきかい あきのり 浮貝 明典 氏	特定非営利活動法人 PDD サポートセンター グリーンフォーレスト	兼任
	2 環境調整による強度行動障害の支援 ②手順書の作成	さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人事務局	兼任
		うきかい あきのり 浮貝 明典 氏	特定非営利活動法人 PDD サポートセンター グリーンフォーレスト	兼任
	3 記録に基づく支援の評価 ③記録の分析と支援手順書の修正	さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人事務局	兼任
		うきかい あきのり 浮貝 明典 氏	特定非営利活動法人 PDD サポートセンター グリーンフォーレスト	兼任
	4 危険対応と虐待防止 ④関係機関との連携	のざき ひでつぐ 野崎 秀次 氏	社会福祉法人同愛会法人本部医療顧問	専任

## 演 習 補 助 者 一 覧 (実践研修)

担当科目		氏 名	現 職	専任・兼任
演 習	1 障害特性の理解とアセスメント	さ の りょう 佐野 良 氏	社会福祉法人育桜福祉会 法人本部事務局	兼任
	2 環境調整による強度行動障害の支援	すずき のりゆき 鈴木 謙之 氏	社会福祉法人育桜福祉会 あかしあ園	兼任
	3 記録に基づく支援の評価	いもと けいこ 井元 圭子 氏	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 くさぶえの家	兼任
	4 危険対応と虐待防止	きたがわ めぐみ 北川 恵 氏	社会福祉法人なごみ福祉会 相談支援センタードリーム	兼任
		あんざい たまき 安齋 環 氏	社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 川崎市 柿生学園	兼任
		たかすぎ まさひろ 高杉 昌宏 氏	社会福祉法人川崎聖風福祉会 アトリエ聖風	兼任
		とみやま えつろう 富山 悦郎 氏	社会福祉法人三篠会 障害者支援施設みずさわ	兼任
		ながた たかし 長田 貴志 氏	社会福祉法人育桜福祉会 桜の風	兼任
		いいだ じゅんいち 飯田 純一 氏	社会福祉法人セイワ 障害者支援施設（入所）つばき寮	兼任
		うちかわ ぎんや 内川 銀也 氏	社会福祉法人三篠会 川崎ラシクル	兼任
		きむら せんり 木村 仙理 氏	社会福祉法人セイワ 障害者支援施設（入所）つばき寮	兼任
		かたおか たけし 片岡 健 氏	社会福祉法人ともかわさき かせやま	兼任
		ほそぶち しゅんいち 細渕 俊一 氏	社会福祉法人ともかわさき ちとせ	兼任

## 川崎市強度行動障害支援力向上研修(実践研修) 研修カリキュラム

## 1日目 9:15~17:30

プログラムNo	科目	開始	終了	min	内 容
受付		9:00	9:20		
開会		9:15	9:30	15	川崎市より挨拶 研修オリエンテーション
プログラム01		9:30	9:50	20	研修のねらい
プログラム1	講義1	9:50	11:50	120	支援を組み立てるための基本「強度行動障害の支援に必要な知識」
昼休憩		11:50	12:50	60	
プログラム2	演習1	12:50	13:50	60	アセスメントの方法「具体的なアセスメントの方法」
休憩		13:50	14:00	10	
プログラム3	演習2	14:00	16:00	120	アセスメントの方法「障害特性に基づくアセスメント」
休憩		16:00	16:10	10	
プログラム4	演習3	16:10	17:10	60	手順書の作成「アセスメントに基づく支援手順書の作成(1)」
プログラム02		17:10	17:25	15	グループで意見交換
		17:25	17:30	5	本日のまとめ 翌日ガイダンス

## 2日目 9:00~17:30

プログラムNo	科目	開始	終了	min	内 容
受付		8:50	9:00	10	
プログラム03		9:00	9:05	5	2日目のねらい
プログラム5	演習4	9:05	11:05	120	手順書の作成「アセスメントに基づく支援手順の作成(2)」
休憩		11:05	11:15	10	
プログラム6	演習5	11:15	12:45	90	記録の分析と支援手順書の修正「記録の方法・記録の分析と支援手順書の修正」
昼休憩		12:45	13:45	60	
プログラム7	講義2	13:45	14:45	60	組織的なアプローチ「組織的なアプローチの重要性」
プログラム8	講義3	14:45	15:15	30	実践報告「チームによる支援の実践」
休憩		15:15	15:25	10	
プログラム9	演習6	15:25	16:55	90	関係機関との連携「関係機関(医療機関等)との連携の方法」
プログラム10	演習7	16:55	17:15	20	研修全体の振り返り
閉会		17:15	17:30	15	川崎市より挨拶 修了証交付

※ 状況により変更する可能性があります。



川崎市強度行動障害支援力向上研修  
(強度行動障害支援者養成研修【実践研修】) 演習計画書

●演習について

- ・各演習におけるグループワークは1グループ最大8名とする。
- ・適切な進行や助言者として、各グループに補助者を1名配置し進行管理を行う。
- ・配置された補助者が講義などでグループを離れる際は、該当するグループの受講者に説明をしたうえで代理の補助者を配置し対応する。

●演習1「プログラム2 アセスメントの方法具体的なアセスメントの方法」(60分) 演習計画  
【実施方法】

支援者が統一した支援を実施するために必要な、障害特性に合わせた支援手順書を作成するための根拠となるアセスメントの方法について学ぶ。

アセスメントに活用する各様式の説明ののち、映像教材を用いて映像にある事例「田中さんの活動場面」を視聴し実際の支援場面を想起する。

「行動チェックシート」を用いて、映像から該当する行動項目にチェックを入れ、その行動を客観的に記録していく。

科目 プログラム2	分	内容	分担	使用ツール
アセスメント方法 ・具体的なアセスメントの方法	10	演習説明	講師	・事例 田中さんの 基本情報資料 ・映像教材 DVD ・行動チェックシート
	10	事例概要説明・映像視聴	講師	
	8	社会性の特性に注目した行動観察・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
	8	コミュニケーションの特性に注目した行動観察・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
	8	想像力の特性に注目した行動観察・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
	8	感覚の特性に注目した行動観察・映像視聴・行動チェックシートへの記入	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
	8	演習まとめ	講師	

●演習2「プログラム3 アセスメントの方法障害特性に基づくアセスメント」(120分) 演習計画  
【実施方法】

講師の解説により、冰山モデルで要因分析を行う考え方と冰山モデルシートおよび補助シートの関連性と使い方を理解する。映像教材を用いて事例「田中さんが作業中に自傷をする」を視聴して特性に合わせた適切な支援方法を導き出す体験をする。

演習を通して支援の根拠を明らかにし、経験則に偏った感覚的な支援ではなく本人の行動観察(事例)から障害特性を導き出し、ミスマッチとなる環境・状況を整理していく。また、具体的な支援を検討していく上で本人の強み(ストレングス)を活かしていく視点についても演習を通して学んでいく。

グループワークで共有し、チームで検討する有効性に気づく。

科目 プログラム3	分	内容	分担	使用ツール
アセスメント方法 ・障害特性に基づく アセスメント	120	10 冰山モデルシートと補助シートの説明	講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例 田中さんの 基本情報資料</li> <li>・映像教材 DVD</li> <li>・行動チェック シート</li> </ul>
		10 課題となる行動の確認	講師	
		7 個人ワーク 作業中に自傷するという行動と関連する特性をピックアップしていく ・社会性の特性	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
		7 個人ワーク 作業中に自傷するという行動と関連する特性をピックアップしていく ・コミュニケーションの特性	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
		7 個人ワーク 作業中に自傷するという行動と関連する特性をピックアップしていく ・想像力の特性	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
		7 個人ワーク 作業中に自傷するという行動と関連する特性をピックアップしていく ・感覚の特性	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
		10 グループワーク 個人ワークで整理したものをグループで共有	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
		5 記入例を用いての解説	講師	
		5 行動に影響を与えている環境や状況を整理	講師	
		5 個人ワーク 環境補助シートで「作業中に自傷する」時の環境や状況を書き出す	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
		5 グループワーク 個人ワークで整理したものをグループで共有	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
		5 支援のアイディアを整理する 個人ワーク 「特性シート」から特性に対する支援のアイディアをピックアップする	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	

	5	支援のアイデアを整理する グループワーク 個人ワークで整理したものをグループで共有	進行：講師 グループ進行：ファシリテーター	
	7	強み（ストレングス）とは	講師	
	5	強みを活かせるような場面の検討 個人ワーク	進行：講師 グループ進行：ファシリテーター	
	5	強みを活かせるような場面の検討 グループワーク 個人ワークで整理したものをグループで共有	進行：講師 グループ進行：ファシリテーター	
	10	発表記入した氷山モデルシートの内容を発表	進行：講師	
	5	まとめ	講師	

●演習3 「プログラム4 支援手順書の作成アセスメントに基づく支援手順書の作成（1）」（60分）

演習計画

【実施方法】

支援者が統一した支援を実施するために必要な障害特性に合わせた支援手順書の作成方法について学ぶ。利用者のサービス提供プロセスにおいて、サービス等利用計画・個別支援計画・支援手順書、それぞれの連動性について学び深めていく。

演習2で整理した氷山モデルシートを用いて、活動の手順を作り上げる。その際、活動の工程を分けるという視点を重視する。

科目 プログラム4	分	内容	分担	使用ツール
手順書の作成 ・アセスメントに基づく支援手順書の作成(1)	25	各種支援計画と支援手順書のつながり	講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例</li> <li>田中さんの基本情報資料</li> <li>・映像教材 DVD</li> <li>・氷山モデルシート</li> <li>・行動チェックシート</li> <li>・特性確認シート</li> <li>・環境確認シート</li> <li>・強み確認シート</li> <li>・支援のアイデア</li> <li>・支援手順書、記録用紙</li> </ul>
	10	個人ワーク 活動の工程を考える	進行：講師 グループ進行：ファシリテーター	
	20	グループワーク 田中さんの作業場面での工程を共有する	進行：講師 グループ進行：ファシリテーター	
	5	まとめ	講師	

●演習4「プログラム5 支援手順書の作成アセスメントに基づく支援手順書の作成（2）」（120分）

演習計画

【実施方法】

支援者が統一した支援を実施するために必要な障害特性に合わせた支援手順書の作成方法について学ぶ。活動の流れや工程に分け、工程ごとに本人の動きを想定する。支援を行う際には事前準備が重要であり、あらかじめの環境設定や支援ツール等の準備についても支援手順書に記入していく。

科目 プログラム5	分	内容	分担	使用ツール
手順書の作成 ・アセスメントに基づく支援手順書の作成（2）	10	個人ワーク 工程ごとに本人の動きを想定し、支援手順書に記入する	進行：講師 グループ進行：ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例 田中さんの基本情報資料</li> <li>・映像教材 DVD</li> <li>・氷山モデルシート</li> <li>・行動チェックシート</li> <li>・特性確認シート</li> <li>・環境確認シート</li> <li>・強み確認シート</li> <li>・支援のアイデア</li> <li>・支援手順書、記録用紙</li> </ul>
	15	グループワーク 場面ごとの想定される本人の動きをグループで共有し活動の手順を決める	進行：講師 グループ進行：ファシリテーター	
	20	個人ワーク 必要なサポートを根拠に、当日までの準備・支援者の動きや配慮・当日の事前準備を記入する	進行：講師 グループ進行：ファシリテーター	
	40	グループワーク 必要なサポートを根拠に、当日までの準備・支援者の動きや配慮・当日の事前準備についてグループで共有する	進行：講師 グループ進行：ファシリテーター	
	20	発表 完成した支援手順書の発表	講師	
	15	まとめ	講師	

●演習5「プログラム6 支援手順書の作成 記録の分析と支援手順書の修正」（90分）演習計画

【実施方法】

本人の障害特性に基づく支援手順書を作成し、手順書に基づいて支援を行い、記録をとっていく。実際には、本人の障害特性に基づいた支援手順書を作成し運用していく中で支援の補正や補強が必要となる場面も出てくることが想定される。記録を根拠にし、どの部分に修正が必要となるか、そのプロセス（PDCA）と修正手順を学ぶ。

科目 プログラム 6	分	内容	分担	使用ツール
記録の分析と支援手順書の修正 ・記録の方法 ・記録の分析と支援手順書の修正	90	10 個人ワーク 工程ごとに本人の動きを想定し、支援手順書に記入する	講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例</li> <li>田中さんの基本情報資料</li> <li>・映像教材 DVD</li> <li>・支援手順書 / 記録用紙</li> <li>・支援手順書 / 修正用</li> </ul>
		5 個人ワーク 動画を見て、支援手順書の「本人の様子」の欄に客観的事実を記録する	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
		15 グループワーク 支援手順書の記録の共有をグループワークで行う	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
		15 スキルの評価 動画視聴と解説	講師	
		20 グループワーク 支援手順書の記録の共有をグループで行う	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
		10 発表 支援手順書の修正内容を発表	講師	
		5 動画視聴 修正後の様子	講師	
		10 まとめ	講師	

●演習 6 「プログラム 9 関係機関との連携関係機関（医療機関）との連携の方法」（20 分）演習計画【実施方法】

強度行動障害の状態像にある方を支援していく上では、医療機関等との連携・協力が必須となる。役割の違いを理解しながら相互に自分たちの専門性を活かし適切な支援を行っていく上で、どのような工夫が必要となるのかを考える。

科目 プログラム 9	分	内容	分担	使用ツール
関係機関との連携 ・関係機関（医療機関等）との連携の方法	20	5 講師自己紹介 グループワークのポイント説明	全体司会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関の連携を考える（グループワークシート）</li> </ul>
		10 グループワーク 「医療等との連携を図る上で工夫していること」「連携が難しいと感じること」についてグループ内で意見を出し合う	進行：講師 グループ 進行：ファシリテーター	
		5 発表	全体司会	

●演習 7 「プログラム 10 研修全体の振り返り」(20 分) 演習計画

【実施方法】

強度行動障害支援力向上研修（基礎・実践）を受講し、明日からの現場実践につなげていくための受講者同士の意見交流の時間とする。ファシリテーターも適宜介入し、支援の PDCA や冰山モデルシート、各種記録の工夫や重要性等について振り返る。

科目 プログラム 10	分	内容	分担	使用ツール
研修全体の振り返り	20	グループワーク 強度行動障害支援力向上研修 （基礎・実践）を統括し、現場実践につなげていくための受講者同士の意見交流の時間とする	ファシリテーター	